

## 2019年度入学式式辞

暖冬とはいえ、雪の降ることもあった冬も終わり、春爛漫の今日、京都薬科大学へご入学されました皆さん、おめでとうございます。これまで入学生の皆さんを慈しみ育ててこられたご父母やご関係の皆様も、さぞお喜びのことと存じます。

本日、ここに学部入学生 366 名、大学院入学生 9 名の皆さんをお迎えすることは、京都薬科大学にとりまして大きな喜びであります。土屋理事長をはじめ、法人役員、名誉教授、教育職員、事務職員、そして京薬会役員、教育後援会役員の皆さまとともに、今日の佳き日を心からお祝い申し上げます。同時に、薬学の世界、さらには本学での教育・研究方針に賛同され、厳しい受験勉強の道をたどってこられた皆さんの努力と熱意に、敬意を表します。

本学の建学の精神は「愛学躬行」であります。この意味するところは「学問を愛すると共に、自ら実践すること」であります。本学の礎は、1884 年、明治 17 年、京都府から招聘されたドイツ人教師、ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者 18 名が設立した京都私立ドイツ学校にあります。彼らはドイツ語を通して西洋の医学、薬学を修得しようとした若き愛学の徒であります。その後、私立京都薬学校、京都薬学専門学校を経て、1949 年、昭和 25 年に京都薬科大学へと昇格し、そして本年、創立 135 年を迎えました。このように本学は、我が国の薬系大学の中でもっとも古い大学のひとつであり、これまでに輩出した卒業生は約 2 万 3 千人、このうち約 1 万 6 千人の方々が、現在、国内外の大学、製薬企業、病院、薬局、行政など、多岐にわたる分野で活躍されています。創設期の名もなき若き学徒たちの一途な思いを継承された諸先輩によって創られた歴史は、何物にも代え難い財産であります。

2006 年に薬学 6 年制が始まり、すでに 10 年以上が経過しました。この間、本学は Science (科学)、Art (技術)、Humanity (人間性) のバランスのとれた人材、すなわち「ファーマシ

スト・サイエンティスト」の育成を目標に教育・研究システムの構築と実行に注力してきました。その成果は、薬学教育評価機構から、『単科の私立薬科大学の模範となるべく、さらに発展することを期待する。』と高い評価を頂いたことから明らかです。この評価に慢心することなく、私たちは6年制薬学教育・研究の第2ステージを目指しております。それは、研究活動を軸とした科学教育を基盤に、「薬学領域で光る人材」「薬学の枠を超えて活躍する人材」を育成し、薬学を起点に『社会を動かす。』ことでもあります。このための人材を輩出することが6年制薬学を先導する本学の使命であると考えています。新しい目標のもとに、皆さんも教職員とともに生き生きと動き、大きな波動となり、「単科の薬科大学」の既成の枠を超えましょう。そうして、本学の130有余年の歴史に新しいページを加えて頂きたく思います。皆さんが本学で、未来を見据え、薬学を軸として幅広い領域で活躍する人に成長することを期待しております。

さて、皆さんにお尋ねしたいことがあります。今日からの6年間はなにをすべきときとお考えでしょうか？ これからの6年間は「薬学のプロフェッショナル」になるための期間であります。6年間の学びで薬学を基盤にして、自分の人生を、自分の力で真っ白な紙の上に描けるようになること、これが本学で学ぶ意義であります。そのための科学・技術・人間性の基本を身につけ、それらを磨く6年間あります。薬学の領域は、どの分野であっても、病める人を出さない、病める人を救う、つまり予防と疾病のプロフェッショナルの領域であります。人の生命を左右する職業人となる領域であり、学ばずして、また憧れだけでは職能を発揮することはできません。薬学のプロフェッショナルになるための自己鍛錬の6年間であると認識して頂きたく思います。当然のことながら、学ぶのは皆さんで、教育職員、事務職員は皆さんが学ぶことをサポートする、またコーチする役割にしか過ぎません。6年間に必要なことは皆さんが教育職員、事務職員からの啓発に応じ、自立して学ぶことであります。それに対して、私ども全職員は全力でサポート致します。

勉学ばかりでは6年間ももたないのも事実です。ときには息を抜くことも必要です。し

かし、それに流され、本学学生としてすべきことを間違えている残念な学生を見ることもあります。なかなか気付かず、時間ばかりが過ぎ、戻れない姿は残念極まりないことです。これに陥らぬためには、よき友人・先輩を早くを見つけることです。よき人とは、成績の優良ではなく、目標に向かって努力を惜しまぬ人のことです。楽しいときも、悩めるときも、ともに心を通わせ話し合えるひとです。このような友人、先輩との交流によって多くのことを啓発され、日々、自分を見つめて欲しいと思います。ある講演のなかでこんなことを聴きました。「ひとの成長を促すに必要な3つの因子がある。それは「本・旅・他人」であり、読書をし、旅行をしたら、そのわずかな感想でも他人に話すこと、そして文字化することが成長を促す」と言うことです。薬学の勉学だけでは学べないこと、それを補うのが読書であり、他人と出会う旅であります。それを自己表現し、他人の反応を得ることではないでしょうか。こうして、病める人の気持ちが分かる、心豊かな人間性を育むことができます。このような自主的な行動も忘れないで頂きたいです。

最後に申し上げます。今を迷っている、将来を迷っている方もこのなかにはおられるかもしれません。迷うことは若いあなた方の特権でもありますし、いまを、また将来を考えている証しでもあります。本学で学ばれ、そして社会の多岐にわたる領域で活躍する諸先輩がおられます。そのような場で薬学の勉学に「潔く」励んでみることに、これがいまの皆さんのすべきことではないでしょうか。

新入生の皆さん、本学の礎を築かれた130有余年前の少壮の学徒に続き、本学での薬学を学び、自分が描くべき将来を見つけましょう。

皆さんの健康と充実した大学生活を祈念しまして、私の式辞と致します。京都薬科大学へのご入学おめでとうございます。

2019年4月2日

京都薬科大学長 後藤 直正